

2022 年度

自己評価

2023年 3月 10日

関東福祉専門学校

I. 学校の概要（2022年4月1日現在）

1. 学校名および学校長名

（学校名） 関東福祉専門学校

（学校長） 小山 まり

2. 所在地

埼玉県鴻巣市中央 23-10

3. 沿革

年 月	事 項
1996年12月	関東福祉専門学校、建物竣工。
1997年 3月	介護福祉士養成施設として厚生省より正式指定。 専門学校として埼玉県より正式認可。
1997年 4月	関東福祉専門学校開校。 初代校長に堀口佳哉が就任。
1997年 6月	大田保健専門学校（韓国）と姉妹提携。
1999年 3月	第1期生卒業。 本校、2号館竣工。
2003年 4月	堀口佳哉が名誉校長に就任。第2代目校長に阪田震一が就任。
2007年 6月	創立10周年記念式典・記念講演会実施。
2008年 4月	1学年定員80名から40名に減員。
2009年 4月	留学生受け入れ開始。職業訓練生（委託訓練生）受け入れ開始。
2010年 4月	EPA(経済連携協定)留学生受け入れ開始。
2011年 4月	介護雇用プログラム学生受け入れ開始。
2011年 11月	アンコール大学（カンボジア）と姉妹提携。
2015年 4月	介護福祉士実務者研修科（通信課程）設置。
2016年 4月	第2代校長阪田震一退任により、第3代校長に尾島朱美が就任。
2016年 10月	谷豊職業訓練学校（中国広州市）と姉妹提携。
2016年 11月	創立20周年記念式典・記念講演会実施。
2017年 6月	聖母医護管理専科学校（台湾）と姉妹提携。
2018年 4月	1学年定員40名から80名に増員。
2020年 4月	学校法人 恵済学園に移管 第4代校長に小山まりが就任。
2022年 4月	学校法人 明星学園に移管

4. 設置課程・学科

分野	課程名	学科名	備考
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉科	昼間部のみ

5. 学生数及び教職員数（2023年3月10日現在）

(1) 学生数 入学定員 80名 総定員 160名

第1学年	第2学年	合計
25名	29名	54名

(2) 教職員数

教員	職員	合計
9名	3名	12名

6. 建学の精神

社会福祉法人立としての特色を生かし* 福祉の現場と教育を結びつけた実践教育の視点から福祉の推進に寄与する専門職「介護福祉士」の育成に努める

また、介護に関する知識と技術を習得することに加えて 「真の人間理解と人に使え学ぶこころ」を持ち続けられる

人間育成に重点を置く介護福祉士を目指し人間の福祉向上に貢献するスペシャリストを育成する（*2020年度より学校法人恵済学園となる。また、2022年度より学校法人明星学園となる。建学の精神は設立当初のものである。）

7. 教育の基本方針

1. 人間性重視の教育の徹底を図る

1. 医療・福祉領域から信頼される実践教育及び協調性ある人材の育成を図る

1. 地域から支持され評価される規律ある教育及び指導を図る

1. 国際的視野で活動できる人材の育成を図る

1. 学生の卒後体制の確立を図る

II. 今年度の重点的目標と取り組み

a) 重点目標

1. 国家試験合格率の向上
2. 留学生の日本語能力強化・学校全体の授業の質向上
3. 除籍退学者の減少
4. 学生数確保
5. 人材育成

b) 取り組み

1. 昨年度の国家試験の合格率は、前年度より上昇したものの、いまだに求められる水準に達していない。特に留学生の合格率を引き上げることが課題となっている。本年度はボーダー学生等を小グループに分けて特別に国家試験対策を実施する。
2. 引き続き日本語能力の向上を図る。介護用語等の基礎力を土台として、アクティブ・ラーニング等によって介護過程の展開能力の向上を図る。また授業間の連携だけでなく、通常授業でも施設との連携を強化して授業の質の向上を図る。
3. 入学者に関しては、前年度より減少しているが、本年度の卒業生人数より多く、全学年としては、増加した。留学生に対する出入国在留管理庁の対応等、社会的状況も大きく変化しているので、引き続き入学試験・学生指導を充実させる。また、社会人・委託訓練生においても、目的や動機について精査したうえで、学校生活や卒業後の進路について理解を深めて入学するよう方向づけていく必要がある。
4. 学生数確保に関しては、在籍者数は増えたものの、新学年は前年度よりマイナスとなっている。広報活動は引き続き強化を図る。広報委員会を中心に、学生数確保に向けてより充実した広報活動を行う。入学者に関しては、留学生はもとより、現役高校生、社会人委託訓練生等の拡充にも積極的に取り組む。
5. 教員に外部研修等の積極的参加だけでなく、介護職員向けの研修等も充実させ、介護福祉士養成校として、地域にも積極的に貢献する。

c) 成果

1. 国家試験の合格率は倍増してはいるが、目標を達成できていないと言えない。日本人(特に現役生)の合格者を100%にすること、また引き続き、留学生の合格率を上げることが課題である。
本年度の国家試験対策は、ボーダー学生等の希望者を小グループに分けて特別に国家試験対策。また、全員に国家試験直前対策講座で学力別グループ学習を導入した。
2. 基礎力向上に向けた介護用語のテストにより、学力向上に一定の効果があつた。通常授業ではぐ行間の連携、施設との連携を図り、ある程度授業の質の向上は見られたが、介護過程の展開に関する理解には、特に留学生に課題が残っている。
3. 昨年度の入学者は、日本人が増え、留学生が減ったが、本年度は逆に日本人が減り、留学生が増えた。除籍者はないが、進路変更等による退学者が若干名いたので、入学試験の厳正化によりミスマッチを防ぐような取り組みの強化が必要となる。
4. 次年度の入学者は、激減している。日本人は増えたものの留学生が集まっていない。新型コロナウイルスの影響で日本語学校にも留学生が少ないことが原因と考えられる。

5. 教員による研修の参加は昨年に引き続き良好といえる。本年度はグループ内介護職員に対する集中的な研修を実施。次年度は、グループ職員を対象とした動画教材の作成を行う。

d) 次年度に向けた取組み

1. 国家試験の合格率は、前年度より倍増させることができた。入学試験の厳正化により学力が高い留学生が集まっているので、引き続き留学生の合格率を上げることが絶対的な課題である。前年度に続けて、ボーダー学生の学力強化を目指す。また、全員に国家試験直前対策講座で学力別グループ学習は、直前ではなく時期を早めて実施し、国家試験対策を充実させ合格率の向上について力を入れる。
2. 基礎学力向上のための介護用語テストは、引き続き行う。また、早いうちから全員に対して、国家試験に向けた補講や小テスト等を実施する。留学生には、引き続き日本語能力の向上を図る。アクティブ・ラーニング等によって介護過程の展開能力の向上を図る
3. 除籍者、退学者に関しては、入学試験の厳正化によりミスマッチを防ぐ。また、入学後は木間細かい指導援助体制で対応する。留学生に対する出入国在留管理庁の対応等にも引き続き注意を払う。
4. 入学者数は、前年度より激減している。本年度の卒業生人数が多かったため、全学年としても激減することになった。次年度は日本人は当然のこと、留学生が日本語学校を多く卒業することになると予想されるので、日本人に関しては、現役生と現役生の保護者に向けた介護福祉士の理解を深めるオープンキャンパスの工夫、留学生に対してはより積極的な日本語学校訪問、日本語学校教員、日本語学校在籍留学生に向けて在留資格介護の理解の深化を図る。
5. 次年度も引き続き教員研修の積極的参加を促す。

III. 自己評価・学校関係者評価

基準 1 教育理念、目的

大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準 1 教育 理念 目的 人材 育成 像	(1-1) 教育理念、 目的	1. 教育理 念、目的 を定めて いるか	○	①教育理念、目的は明文化されている
			○	②分かりやすく表現されている
		2. 教育 理念、目 的の周知 を図って いるか	○	① HP に公開している
			○	② 入学案内・履修の手引き・学校新聞・通信などに掲載し、入学検討者・学生・保護者・関連業などに配布し周知を行っている
			○	③ オープンキャンパスなどで入学検討者・学生・保護者に、教育理念、目的の説明を行っている
			○	④ 実習先の介護施設・企業には、実習打合せ時に周知している
			○	⑤非常勤講師を含めた教職員に周知している
		⑥周知の対象者を定め、周知の度合いを測定している		
	(1-2) 人材育成 像	1. 人材育 成像を定 めている か	○	①人材育成像は明文化されている
			○	② 箇条書きにするなど分かりやすく表現している
				③知識・理解、汎用的技能（コミュニケーション・スキル・情報リテラシー）、態度・志向性（リーダーシップ・倫理観）など観点別に分類し、偏りのないことを確認している
		2. 人材育 成像は社 会のニー ズに適合 している か		①人材に対する社会のニーズ調査を定期的に行っている
			○	②学校関係者委員会や教育課程編成委員会で人材要件の適合性について定期的に検討を行っている
			○	③関係企業からの評価を定期的に受けている
○			④人材育成像の見直しを定期的に行っている	
3. 人材育 成像の周 知を図っ ているか		○	① HP に公開している	
		○	② 入学案内・履修の手引き・学校新聞・通信などに掲載し入学検討者・学生・保護者・関連業界などに配布し周知を行っている	
		○	③ オープンキャンパスなどで入学検討者・学生・保護者に、人材育成像の説明を行っている	
		○	④ 実習先の介護施設・企業には、実習打合せ時に周知している	
		○	⑤非常勤講師を含めた教職員に周知している	
			⑥ 周知の対象者を定め、周知の度合いを測定している	

(学校関係者評価委員会による評価)

・特に意見はなかった。

基準 2 教育活動

大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準 2 教育 活動	(2-1) 人材育成像 に沿った教育課程の編 成・実施方 針	1. 人材育 成像に沿 った教育 課程の編 成・実施 方針を定 めている か	○	①教育課程の編成及び実施方針を明文化している
			○	②教育課程の編成及び実施方針は箇条書きなどし、分かりやすくなっている
			○	③カリキュラム構造、教育の方法、評価の方法、成績評価など段階的に分かりやすく表現されている
			○	④教育課程の編成及び実施方針には専門学校の特徴として企業との連携体制や実践的な職業教育について記載されている
			○	⑤教育課程の編成及び実施方針には方針通りのカリキュラムが組めたか、教育方法が実施されたかなどを確認する方法が記載されている
		2. 人材育 成像に沿 った教育 課程の編 成・実施 方針の周 知を図っ ているか	○	①HP に公開している
			○	②履修の手引きに記載しガイダンスごとに、学生向けの周知活動をおこなっている
			○	③教職員会議などで教職員に周知している
			○	④教職員の周知の程度を測定している
			○	⑤ ②③④の意見を基に教育課程編成委員会が定期的に点検・評価し、改善している
	(2-2) 専攻分野に おける企業 等との連携 体制の確保 と実践的な 職業教育の 実施	1. 教育 課程編成 委員会や 介護福祉 施設、企 業などと 連携して 教育課程 を編成し ているか	○	①教育課程編成委員会を設置している
			○	②教育課程編成に関連施設、企業の意見を聞く機会を設けている
			○	③実習受入先の施設などの意見を聴取している
			○	④卒業生の意見を聴取している
			○	⑤ ②③④の意見を基に教育課程編成委員会が定期的に点検・評価し、改善している
		2. 介護 福祉施 設、企業 などと連 携して実	○	①実践的な職業教育の内容になっているかをシラバスで点検・評価を行っている
			○	②連携している施設・企業とは事前・事後の打ち合わせを行っている
			○	③連携している施設、企業から授業に盛り込むべき内容について意見を聴取している

(2-3) 介護分野に おける教育 の特色ある 取組み	実践的な職 業教育が 実施され ているか	○	④連携している施設、企業に授業参観を依頼し、現場で生かせる授業に努めている
		○	⑤連携している施設、企業と共同して学習会などを行っている
		○	⑥地域住民、地域団体・機関などと連携した実践的な教育（授業・演習への招聘、体験学習など）を行っている
	1. 講義・ 演習など における アクティ ブラーニ ングを展 開してい るか	○	①アクティブラーニングを導入している科目のシラバスには到達目標や実施計画が記載されている
			②アクティブラーニングを導入している科目は（ 60 ）%程度である
			③介護福祉分野に特化して工夫されたアクティブラーニングは（ 80 ）%程度である
			④アクティブラーニングの導入による目標達成の割合を測定する指標を定めている
		○	⑤アクティブラーニングの展開による学修成果を把握している
		○	⑥アクティブラーニングの展開の成果・課題の把握をもとに、授業改善に取り組んでいる
	2. 施設、 企業など と連携し て実習、 実技又は 演習を行 っている か	○	①教育課程における実習等の位置づけ、介護福祉施設などとの連携のあり方、方針などを明文化している
		○	②実習先と実施要項・マニュアルについて、検討を行う機会を設けている
		○	③定期的の実習指導者連絡会議などを開催している
		○	④実習の学修成果を把握するために、各段階における「達成目標・課題」「身につけるべき価値・態度・知識・技術」などを明文化しており、実習などの成績評価の方法や基準を作成している
		○	⑤巡回指導教員と実習指導者が、巡回指導の計画（日程）について確認する機会を設けている
	3. 介護分 野の教育 全般にお いて、人 材育成像 が示す能 力が身に つくよう な取り組	○	①人材育成像が示す能力が身に付くカリキュラムになっているか点検・評価を行っている
		○	②成績評価の方法は人材育成像が示す能力を身に付けさせるために妥当であるか点検・評価を行っている
		○	③カリキュラムに沿った授業を行っているか調査を行っている
		○	④シラバスに記載通りの成績評価の方法を実行しているか調査を行っている
○		⑤個々の学生の学習状況や進路に応じた目標を定めている	
○		⑥提出物や試験に関して、フィードバックを行っている	

	みを行っているか	○	⑦介護分野の人材育成像が示す能力を体験的に身に付けることのできるプログラムを導入している。
		○	⑧具体的な達成目標を定め、目標を達成したことを測定している
	4. 介護の現場において必要なコミュニケーション能力が身に付くような取組みについて	○	① 利用者や家族の言葉を傾聴し、受容の姿勢で、共感的理解などができるようなプログラムを導入している
		○	② 体験的にコミュニケーション技術を習得できるプログラム(ロールプレイ、グループディスカッションなど)を導入している
		○	③ 障害者、難病等当事者との実践的なコミュニケーション体験ができるプログラムを導入している
	5. 人権・尊厳の価値、法令遵守の意義について理解し、倫理的行動(身体拘束禁止・虐待防止等も含む)ができる取組みについて	○	① 人権・尊厳を理解する事が、介護実践における基本的な姿勢であることを体験できるプログラムを指導している
		○	② 個人の生活や背景、年齢や社会変化に伴い、価値が変化することを通して、多様性を認める必要性を体験できるプログラムを導入している
		○	③ 身体拘束・虐待について考える機会を導入している
		○	④介護の質向上に向けてチームマネジメント能力を身に付けることのできるプログラムを導入している
	6. 認知症や障害のある人の介護に関する基本的な知識・技術が身に付	○	①認知症や障害を引き起こす疾患について医学的・心理的・社会的等、多角的な理解ができるようなプログラムを導入している
		○	②認知症の状況の如何によらず、すべての人が尊厳ある存在であることを体験できるプログラムを導入している
		○	③認知症への専門的な対応の手法(パーソンドセンタードケア、回想法、リアリティオリエンテーション、バリデーション、ユマニチュード等)を体験できるプログラムを導入している

		く取組みについて	<input type="radio"/>	④認知症や障害のある人の支援に対して地域連携や他職種協働による支援を体験的に理解できるプログラムを導入している。
		7. 自立支援や予防を目的に潜在能力を引き出す介護技術が身に付くような取組みについて	<input type="radio"/>	①自立した生活に向けて介護過程と連動した、根拠のある、介護技術としての教育が行なわれている。
			<input type="radio"/>	② グループワークの活用などを通して、介護と自立支援の違いを体験できるプログラムを導入している
			<input type="radio"/>	③福祉用具・福祉機器を実際に活用し、自立支援が体験できるプログラムを導入している
			<input type="radio"/>	④自分の心身を守るための理論と実践を体験できるプログラムを導入している
	(2-4) 教員の組織体制	1. 専攻分野における資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="radio"/>	①教員名簿（専任・非常勤）を作成している
			<input type="radio"/>	②科目ごとに担当教員の必要な資格の一覧表を作成している
			<input type="radio"/>	③教員からは必要な資格が取得済みである証拠の提出を求めている
			<input type="radio"/>	④法令上必要な教員が確保されていることを確認している
			<input type="radio"/>	⑤全教員について授業の持ちコマ数に関する条件と持ちコマ数一覧を作成している
<input type="radio"/>			⑥持ちコマ数に偏りが無いかなど定期的に点検を行っている	
2. 教員の資質向上への取組・施設等と連携した研修会を行っているか		<input type="radio"/>	①企業等と連携し、専攻分野における実務に関する研修などを行っている	
		<input type="radio"/>	②授業及び指導力に関する研修を企業などと連携して実施している	
		<input type="radio"/>	③研修参加を奨励し、教員の費用負担の軽減措置をとっている	
		<input type="radio"/>	④全国規模・地域規模の研修は、全教職員に公平に参加機会を提供している	
		<input type="radio"/>	⑤自己啓発を図る為、研究費を設けている	
		<input type="radio"/>	⑥FD 研究会を開催している	
3. 教員の資質向上への取組を行っているか		<input type="radio"/>	①授業評価は全学的に統一した様式で行っている	
		<input type="radio"/>	②授業評価は学期毎に実施している	
		<input type="radio"/>	③授業評価は IT 化して実施している	
		<input type="radio"/>	④授業評価の結果は教員個人にフィードバックするとともに全体の分析を行いフィードバックしている	
		<input type="radio"/>	⑤全体の授業評価の結果は毎回分析・評価している	
		<input type="radio"/>	⑥授業評価の結果は学生に公開している	

		4. 必要な組織体制を整備しているか	<input type="radio"/>	⑦教員相互による授業評価を行っている
			<input type="radio"/>	⑧授業評価の結果を基に研究会のようなFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動を行っている
			<input type="radio"/>	⑨授業評価の結果に関して具体的な達成目標を定めている
			<input type="radio"/>	⑩授業評価の結果を昇格・昇給などの参考資料として活用している
			<input type="radio"/>	①課程（学科）毎に教員の必要な組織体制を明文化している
			<input type="radio"/>	②課程ごとに教員の必要な組織体制の構築を確認している
			<input type="radio"/>	③教員の業務分担・責任体制は職務分掌規程で定めている
			<input type="radio"/>	④組織体制に非常勤講師を含む全科目担当者間会議が含まれている
			<input type="radio"/>	⑤同一科目担当者間会議が含まれている
			<input type="radio"/>	⑥FD委員会会議が含まれている
	(2-5) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準	1. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定めているか	<input type="radio"/>	①卒業要件、進級要件、単位認定要件、成績評価基準などは学則に明文化している。
			<input type="radio"/>	②卒業要件、進級要件、単位認定要件、成績評価基準などについてはHP、履修の手引きなどに掲載し、学生に周知している
			<input type="radio"/>	③シラバスに成績評価基準、及び評価方法を記載している
			<input type="radio"/>	④成績評価は、授業への参加、テストの成績、実習レポートの提出など多面的に評価することを教員間で合意している
		2. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は適正に運用しているか	<input type="radio"/>	①成績評価の結果は教職員会議で共有している
			<input type="radio"/>	②成績評価・単位認定、進級・卒業判定について、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいる
			<input type="radio"/>	③ポートフォリオやレポートにおいてはルーブリックを作成して評価を行っている
			<input type="radio"/>	④成績評価方法は、人材育成像が示す能力を身に付けさせる為に適切か点検をしている
			<input type="radio"/>	⑤学習成果や授業改善の指標としてGPAを用いている。
<input type="radio"/>				
(2-6) 学生相談	1. 学生相談に関する体制を整備し、適切に運営しているか	<input type="radio"/>	①学生相談室などを設置している	
		<input type="radio"/>	②学生相談室規程がある	
		<input type="radio"/>	③専任カウンセラー（担当者）を配置している	
		<input type="radio"/>	④相談ファイルの管理は個人情報として管理し、プライバシーの保護を遵守している	
		<input type="radio"/>	⑤セクシュアル・ハラスメントや苦情相談に関して対応している	
	<input type="radio"/>	①留学生専門の担当者を配置している		

	2. 留学生 が在籍する 場合、 相談体制 を整備 し、適切 に運営し ているか	<input type="radio"/>	②国別に卒業生や上級生によるサポート体制がある	
		<input type="radio"/>	③法律などに関連する事項の場合は、公的な機関などに教職員が必要に応じて同行している	
		<input type="radio"/>	④留学生と定期的に個人面談を行い生活やアルバイトの状況を詳細の把握し「留学生生活状況記録簿」などに記録している	
		<input type="radio"/>	⑤相談ファイルの管理は個人情報として管理し、プライバシーの保護を遵守している	
		<input type="radio"/>	⑥学内で学生の交流会を実施している	
		3. 保護者 と適切に 連携して いるか	<input type="radio"/>	①保護者会があり、定期的に会合を開催している
			<input type="radio"/>	②学校新聞・SNSなどを保護者や保証人に学校情報などを伝えている
			<input type="radio"/>	③授業公開日・参観日を設けている
			<input type="radio"/>	④学生本人の了解の上、保護者や保証人に成績評価・出席日数などを送付している
		(2-7) 学生生活の 支援	1. 学生の 経済的側 面に対す る支援制 度を整備 し、適切 に運用し ているか	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/>			②独自の学費支援制度がある
	<input type="radio"/>			③学資の減免制度がある
	<input type="radio"/>			④学資の分割納付制度がある
	<input type="radio"/>			⑤オープンキャンパス等で入学前の学費支援について説明を行っている
<input type="radio"/>	⑥経済支援の相談窓口を常設している			
<input type="radio"/>	⑦学生の学資支援制度の利用状況は把握し、一覧表を作成している			
2. 社会人 学生への 教育環境 を整備 し、適切 に運営し ているか			①社会人が学べるように夜間の授業を開講している	
			②土、日曜日の補講を開講している	
			③土、日曜日、夜間も図書室が使用できる日を設けている	
	<input type="radio"/>		④Webによる相談窓口を設けている	
3. 課外活 動に対す る支援制			①クラブ活動の参加者名簿、活動報告書の提出を義務付けている	
			②学校新聞・SNSなどでクラブ活動状況を伝えている	

	度及び体制を整備し、適切に運用しているか		③運営費の補助金を支給している
		○	④必要に応じて教職員が引率している
(2-8) 卒業生への支援	1. 卒業生への支援体制を整備し、適切に運営しているか	○	①同窓会有一些
		○	②毎年同窓会を開催している
		○	③同窓会には教職員も参加している
		○	④卒業後も再就職等相談に対応している
			⑤介養協や介護士団体などの講演会や技術講習会の案内を送付している
		○	⑥キャリアアップの講習会や技術講習会を開催している
(2-9) 入学者の募集、入学選考	1. 入学者受け入れ方針を明確にしているか	○	①入学者受け入れ方針は明文化されている
		○	②箇条書きにするなど分かりやすく表現している
		○	③知識・理解、汎用的技能（コミュニケーション・スキル・情報リテラシー等）、態度・志向性（リーダーシップ・倫理観など）観点別に分類し、偏りのないことを確認している
	2. 入学者の募集活動は入学者の受け入れ方針に従って適正かつ効果的に行っているか	○	①募集活動は入学者の受け入れ方針に従っている
		○	②各入試形態に応じて、適切な時期に願書の受付期間を設定している
		○	③学校案内が分かりやすいか、知りたいことが載っているかなどオープンキャンパス参加者から意見を聴取している
		○	④スマートフォンによるツイッターやインスタグラム等の多様なメディアを用いて学校のPR活動を行っている
	3. 入学選考方法	○	①高校推薦入試を導入している
		○	②AO入試を導入している
		○	③指定校推薦入試を導入している
		○	④社会人推薦入試を導入している
		○	⑤留学生入試を導入している
		○	⑥一般入試を導入している
	4. 入学選考方法を	○	①入試選考方法は明文化されている
○		②箇条書きにするなど分かりやすく表現している	

(2-10) 専攻分野における教育上の必要性に対応した施設・設備	明確に定め、適正に運用しているか	<input type="radio"/>	③入学選考方法は入学者受け入れ方針に沿って作成している	
		<input type="radio"/>	④入学選考は規程に従い、公平、正確に審査している	
		<input type="radio"/>	⑤入学選考方法の妥当性については定期的に見直しを行っている	
		5. 入学手続きは適正に行っているか	<input type="radio"/>	①規程に基づき入学手続きを行っている
			<input type="radio"/>	②入学辞退者について授業料の返還に関して明記している
	<input type="radio"/>		③明記にしたいが授業料の返還を取り扱っている	
	1. 施設・設備は教育上の必要性に対応できるよう整備しているか	<input type="radio"/>	①実習室に関する設置基準・養成施設指定基準を明示している	
		<input type="radio"/>	②実習室の現状を把握し、設置基準・養成施設指定基準に適合していることを定期的を確認している	
		<input type="radio"/>	③備品に関する養成施設指定基準を明示している	
		<input type="radio"/>	④備品に関する現状を把握し、養成施設指定基準に適合していることを定期的を確認している	
	2. 施設・設備などの日常点検、定期点検、補修、更は適切に対応しているか	<input type="radio"/>	①設備は業者に定期点検を依頼している	
		<input type="radio"/>	②実習用の機材、用具は事前、事後の点検している	
		<input type="radio"/>	③実習用の機材、用具は計画的に更新・購入計画を策定している	
		<input type="radio"/>	④福祉用具取扱い業者に、最新の福祉用具等の紹介を依頼している	
	3. 専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を図書室に配架し、学生に必要に応じ閲覧できるような環境を提供しているか	<input type="radio"/>	①図書館は採光、防音、空調設備を整備している	
<input type="radio"/>		②必要な蔵書、文献、雑誌、参考書等を整えている		
<input type="radio"/>		③適切な広さで書籍や机を利用しやすく配置している		
<input type="radio"/>		④蔵書はデータベース化して、PCで検索できる		
<input type="radio"/>		⑤蔵書は探し易いように分類されている		
<input type="radio"/>		⑥社会人にも利用しやすい閲覧時間帯になっている		
<input type="radio"/>		⑦貸出にも対応している		
<input type="radio"/>		⑧介護福祉基礎分野の参考図書（ 423 ）冊		

		○	⑨介護福祉分野の専門書（ 1120 冊）
		○	⑩介護福祉分野の定期刊行物（ 12 種類）

（学校関係者評価委員会による評価）

- ・留学生に対し日本語で教えることの難しさがあり、使用する言葉のチョイスにも工夫が必要で日本語をどのように克服していくかが課題。外国籍の職員を雇っている施設にとっても日本語教育が課題となっている。色々な場（イベント）への参加を促すなどしている。学校と施設の協力体制の強化も必要だと思う。
- ・2024年度生の候補となる日本語学校在籍の留学生は昨年・今年に比べ増加傾向にあることも鑑み、早めのアプローチが必要。特定技能と比較しての養成校の魅力や在留資格「介護」の魅力（家族を呼べることや永住権を取得するために有利であることなど）を早い時期から今以上に伝えた方が良いのではないか。
- ・アフリカからヨーロッパや南米から北米などへ留学した場合に留学先にとどまることが多いのに対し、アジアから日本へ留学した場合は母国への帰国や他国へ移ることが多い。日本の教育は評価されているのでファーストステップとしては選ばれるがとどまらないことを考えると日本で就業することの魅力も課題である。

基準3 学習成果

大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準 3 学習 成果	(3-1) 専攻分野の 教育活動に おける目標 達成と改善	1. 学生が 身に付けた 学修成果 (アウトカム) は、目標 とする水準 にあるか	○	①目標を定めている
			○	②目標を達成したことを測定する評価指標、評価基準を定めている。
			○	③目標を達成したことを評価指標、評価基準により判定している
				④判定結果目標を達成している
			○	⑤概ね目標を達成し、ある程度成果を上げている
				⑥目標を達成できず、あまり成果を出していない
		2. 目標達成が十分でない場合、教育活動などの改善を図っているか	○	①判定結果を教職員で共有する機会を設けている
			○	②目標未達成の原因を専門的見地から分析を行っている
	○		③分析結果を基に対策会議などを開催している	
	○		④教育活動等の改善対策を実行している	
(3-2) 就職率向上	1. 就職 支援・相	○	①就職支援・指導委員会を設置し、運営している。	
		○	②就職相談室や就職支援室を設置している	

の取組みと 成果	談体制を 確立して いるか	<input type="radio"/>	③就職支援・指導に関する年間計画（目標・実施方針など）を策定している
		<input type="radio"/>	④学生個々の「進路指導（相談・支援）カード」などを作成している
		<input type="radio"/>	⑤入学時から定期的に個別面接を行い、進路について意識させるとともに、要望・希望を確認して進路指導カードに記入している
	2. 就職率 向上に十 分に取り 組んでい るか	<input type="radio"/>	①連携している施設・企業の採用担当者に施設・企業の仕事、役割等についての講演を依頼している
		<input type="radio"/>	②連携している施設・企業の求人を優先している
			③履歴書の書き方の研修を外部講師に依頼して行っている
			④面接の受け方、マナー等の研修を外部講師に依頼して行っている
		<input type="radio"/>	⑤様々な介護現場を見学・実習し介護分野の幅を広げることによって、就職への意欲を高めている
		<input type="radio"/>	⑥就職状況に関するデータは全て電子化し、教職員・学生が閲覧できるようにしている
		<input type="radio"/>	⑦分析結果を共有するシステムや機会を設けている
		<input type="radio"/>	⑧分析結果を基に対策会議などを開催している
	3. 就職率 は目標と する水準 にあるか	<input type="radio"/>	①就職率の目標を設定している
		<input type="radio"/>	②目標を達成したことを測定する評価指標、評価基準を定めている。
		<input type="radio"/>	③目標を達成している
			④概ね目標を達成し、ある程度成果を上げている
			⑤目標を達成できず、あまり成果を出していない
	4. 離職率 や職場定 着率を改 善する取 組をして いるか	<input type="radio"/>	①一年未満の離職者から相談を受けると共に離職理由を調査する担当部署を設けている
			②一年未満の離職者からの相談記録や離職理由をデータ化し、共有できるシステムを構築している
		<input type="radio"/>	③一年未満の離職率や職場定着率の改善に関して対策会議を開催している
	(3-3) 専攻分野 における資 格取得率の 向上の取組 みと成果	1. 国家 試験受験 対策の体 制を確立 している か	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>			②国試対策の方針は明文化されている
<input type="radio"/>			③国試対策会議で毎年度国家試験合格率の目標値を設定している
<input type="radio"/>			④国家資格の内容、取得の意義について教職員が共有する機会を設けている

		<input type="radio"/>	⑤国試対策の方針に専門科目の内容と国試を関連付けた授業を行うことが含まれており、それを教員間で合意している
	2. 国家試験合格率の向上への取組み	<input type="radio"/>	①国試対策の方針にしたがい特別講座や補講を計画的に実施している
		<input type="radio"/>	②不合格者の卒業後の指導について窓口を設け継続して対応している
		<input type="radio"/>	③模擬試験を受けることを奨励している
		<input type="radio"/>	④個人指導を取り入れている
		<input type="radio"/>	⑤学習の仕方を指導している
	3. 国家試験の合格率は目標とする水準にあるか		①目標を達成し、成果を上げている
			②概ね目標を達成し、ある程度成果を上げている
		<input type="radio"/>	③目標を達成できず、あまり成果を出していない
		<input type="radio"/>	④ ②③の場合、全国平均などとの比較・分析など行い、国試対策方針決定会議にフィードバックを行っている
	4. 国家試験以外の資格取得の取組みをしていますか	<input type="radio"/>	①資格名（ 普通救命講習 ）
		<input type="radio"/>	②授業内容と関連して、取得を勧めている
		<input type="radio"/>	③介護福祉士の仕事と関連付けて取得を勧めている
(3-4) 退学率低減への取組みと成果	1. 退学率低減への取組み	<input type="radio"/>	①過去数年間の学年別、学科別の休学・退学者数はデータ化している。
		<input type="radio"/>	②退学の実情や要因のデータを分析している。
		<input type="radio"/>	③休退学防止のチェックリストを基に学生と定期的に個別面談をしている
		<input type="radio"/>	④退学の可能性のある学生への個別対策は全教職員で共有している
		<input type="radio"/>	⑤保護者や保証人などに定期的に学校新聞・通信を配布し、また、成績表を送付している
	2. 退学率は目標とする水準にあるか	<input type="radio"/>	①退学率の目標を達成している
		<input type="radio"/>	②退学率の目標が適切であったか検証している
			③退学率は年々減少している
		<input type="radio"/>	④退学率の目標を概ね達成している
(3-5) 卒業生の専	1. 就職先等の関係	<input type="radio"/>	①就職先福祉施設・企業などから卒業生の勤務実績について情報を得る機会を設けている

攻分野における社会的評価	者から、卒業生の活動実績などの状況把握を行っているか	<input type="radio"/>	②就職先の福祉施設など企業へアンケート調査を依頼している
		<input type="radio"/>	③関連学会の大会の発表や論文をチェックし、卒業生の研究状況を把握している
		<input type="radio"/>	④卒業生交流会で互いの勤務実績や研究実績について情報交換の機会を設けている
		<input type="radio"/>	⑤定期的に通信を発送し、卒業生の勤務実績や研究実績について広報活動に努めている
	2. 卒業生の活動実績を踏まえ、教育活動などの改善を図っているか	<input type="radio"/>	①改善の取組に関する会議を開催している
		<input type="radio"/>	②改善策に優先順位を付けて取り組んでいる
		<input type="radio"/>	③各改善策に対して振り返りの会議を開催している

(学校関係者評価委員会による評価)

- ・日本語能力も必要だが話を理解しようとする向上心があるかが重要なのではないかと。外国籍の方でも役職に就いて活躍している現状を伝えるなど、先のビジョンを持てるようにすることが国家試験の合格率向上につながるのではないかと。
- ・「食べさせる」ではなく「食べていただく」など心の持ち方も大切な学びだと思ふ。また、国家資格を取得するメリットを伝えることで今やるべきことをみつけて頑張れるのではないかと。

基準4 内部質保証

大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準4 内部質保証	(4-1) 関係法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な学校運営	1. 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="radio"/>	①学校運営上必要な諸規程などの一覧表を作成している
			<input type="radio"/>	②一覧表の規則・規程などを適切にファイリングしている。
			<input type="radio"/>	③教職員は規則・規程などを自由に閲覧できるようにしている
			<input type="radio"/>	④ハラスメントに関する方針を明文化している
			<input type="radio"/>	⑤ハラスメント対応マニュアルを作成している
			<input type="radio"/>	⑥ハラスメントなどの相談窓口を設置している
			<input type="radio"/>	⑦コンプライアンスの相談・通報窓口を設置している
		2. 個人情報の保護のための対策をと	<input type="radio"/>	①個人情報保護に関する方針・規程などを明文化している
			<input type="radio"/>	②個人情報保護に関する対応マニュアルを作成している
			<input type="radio"/>	③個人情報の取り扱い、運営などの関する会議を定期的開催している。

	っているか	<input type="radio"/>	④個人情報の漏洩が起きた場合、緊急対策会議などを招集するシステムを構築している
		<input type="radio"/>	⑤学生には入学時に個人情報保護に関する方針・規程・取扱要領などを説明している
(4-2) 学校評価の実施と結果の公表	1. 学校評価の実施と結果の公表	<input type="radio"/>	①自己評価の目的・方針を明文化している
		<input type="radio"/>	②自己評価実施方針を明文化している
		<input type="radio"/>	③自己評価実施のマニュアルを作成している
		<input type="radio"/>	④実施マニュアルには目標達成は評価指標と評価基準にしたがって行うことが謳われている
		<input type="radio"/>	⑤自己評価報告書は学科ごとに作成している
		<input type="radio"/>	⑥自己評価報告書はHPで公開している
		<input type="radio"/>	⑦自己評価報告書は学校関係者評価委員に配布されている
		<input type="radio"/>	⑧自己評価報告書は教職員に説明配布している
	2. 学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、結果を公表しているか	<input type="radio"/>	①学校関係者評価委員会の方針や運営規程は明文化されている
		<input type="radio"/>	②学校関係者評価の評価項目を定めている
		<input type="radio"/>	③学校関係者評価委員会は改善の提案ができるシステムとなっている
		<input type="radio"/>	④学校側は学校関係者評価委員会の改善に関する提案に対して回答をしなければならないシステムになっている
		<input type="radio"/>	⑤学校関係者評価委員会を定期的開催している
		<input type="radio"/>	⑥学校関係者評価委員の構成は定期的に見直しをしている
		<input type="radio"/>	⑦学校関係者評価委員の評価結果は報告・提案書としてまとめている
		<input type="radio"/>	⑧学校関係者評価委員の評価結果は報告・提案書を基に教職員会議で報告説明している
		<input type="radio"/>	⑨学校関係者評価委員の報告・提案書とそれに対する学校の対応についてHPで公表している
		(4-3) 学校評価に基づく改善の取組と教育情報公開	1. 学校評価の結果をフィードバックし、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取
<input type="radio"/>	②評価結果を基に学校改善は全教職員で取り組んでいる		
<input type="radio"/>	③取組み状況、進捗状況は教職員会議で周知されている		
<input type="radio"/>	④改善の達成目標を定めている		
<input type="radio"/>	⑤目標の達成状況を測定する評価指標と評価基準を作成している		
<input type="radio"/>	⑥改善結果は期待値通りで目標を達成している		

	組を組織的かつ継続的に行っている	<input type="radio"/>	⑦改善結果はほぼ期待値通りで目標をおおむね達成している
			⑧改善結果は期待値通りではなく、目標は達成されていない
	2. 教育情報に関する情報公開を積極的にしているか	<input type="radio"/>	①学校の情報公開に関する方針やの規程を明文化している
		<input type="radio"/>	②情報公開は規定に従って行われている
		<input type="radio"/>	③職業実践専門課程の認定要件に規定されている公開情報はHP上で更新して公開している
		<input type="radio"/>	④教育情報に関して積極的に情報公開に努めている

(学校関係者評価委員会による評価)

・特に意見はなかった。

基準5 学校運営・財務

大項目	中項目	小項目 設問項目	回答欄 ○を付ける	回答項目
基準5 学校運営 ・ 財務	(5-1) 運営方針・ 事業計画	1. 運営方針・事業計画・重点目標を適正な手続きで決定しているか	<input type="radio"/>	①学校運営会議を定期的開催している
			<input type="radio"/>	②学校運営会議では事業計画、予算計画、中期計画等の審議をしている
			<input type="radio"/>	③会議議事録を作成し、教職員が何時でも閲覧できるようにしている
		2. 運営方針と事業計画・重点目標を文書化し、教職員に周知・徹底しているか	<input type="radio"/>	①学校運営会議の成果物（運営方針・事業計画・重点目標）は明文化されている
			<input type="radio"/>	②成果物は運営委員に配布している
			<input type="radio"/>	③成果物は教職員がいつでも閲覧できるようになっている
			<input type="radio"/>	④事業計画書、重点目標の執行体制と業務分担は明確に定められている
			<input type="radio"/>	⑤事業計画書を戦略、スケジュール化している
			<input type="radio"/>	⑥事業計画書の戦略、スケジュールは教職員が共有している
			<input type="radio"/>	⑦達成目標は明文化されている
	1. 学校運営組織を	<input type="radio"/>	⑧目標の達成を測定する評価指標と評価基準を設定している	
<input type="radio"/>		⑨目標の達成を測定している		
		1. 学校運営組織を	<input type="radio"/>	① 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき運営開催していることを確認している

(5-2) 学校運営組 織の整備	適正に運営しているか	<input type="radio"/>	②理事会、評議員会の議事録は作成している
		<input type="radio"/>	③理事会、評議員会の議事録は役員に配布している
		<input type="radio"/>	④理事会、評議員会の議事録は教職員が閲覧できるようにしている
		<input type="radio"/>	⑤寄附行為の改定は、適正な手続きを経て行っていることを確認している
		<input type="radio"/>	⑥諸規程は適切に運用されていることを定期的を確認している
		<input type="radio"/>	⑦諸規程は定期的に見直している
		<input type="radio"/>	⑧規則・規程等は適正な手続きを経て改正していることを確認している
		<input type="radio"/>	⑨学校運営に必要な事務及び教学組織はそれぞれ部、課に分かれ、位置づけが明確になっている
		<input type="radio"/>	⑩教職員の業務分担・責任体制は職務分掌規程で定めている
		<input type="radio"/>	⑪各部・課は適切な人員で構成されている
		<input checked="" type="radio"/>	⑫教職員の職制等に応じた研修を導入している
		2. 人事、給与に関する制度を整備し、適正に運用しているか	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	②採用基準、採用手続及び昇給・昇格、人事考課に関する基準・規程等は、教職員が何時でも閲覧できるようにしている		
<input type="radio"/>	③昇給・昇格、人事考課に関する基準・規程等に従い 適正に運用されているか確認している		
<input type="radio"/>	④給与規程は明文化され、教職員がいつでも閲覧できるようにしている		
<input type="radio"/>	⑤給与規程が適正に運用されているか確認をしている		
<input type="radio"/>	⑥人事評価制度を導入している		
(5-3) 学校における安全対策・防災組織	1. 学校における安全管理体制を整備し、適切に運営しているか	<input type="radio"/>	①学校安全計画を策定している。
		<input type="radio"/>	②学校安全計画は教職員がいつでも閲覧できるようにしている
		<input type="radio"/>	③防犯マニュアルを作成している
		<input type="radio"/>	④授業中や実習中の事故などに関するマニュアルを作成している
		<input type="radio"/>	⑤授業中や実習中の事故などに関する安全体制を整備している
	2. 防災に関する組織体制を整備し、適切に運	<input type="radio"/>	①消防計画を作成し消防省に届けている
		<input type="radio"/>	②消防計画は教職員に周知を図っている
		<input type="radio"/>	③年に1度以上消防訓練を実施している
		<input type="radio"/>	④消防訓練（避難訓練）は学生も含めて実施している
		<input type="radio"/>	

	営しているか	<input type="radio"/>	⑤防火点検は法令に従い実施している	
		<input type="radio"/>	⑥大規模災害に対する危機管理マニュアルを作成している	
		<input type="radio"/>	⑦教職員や学生に大規模災害の研修会を開催している	
		<input type="radio"/>	⑧大規模災害時における地域などとの連携体制を整備している	
	(5-4) 学生の健康管理	1. 学生の健康管理を行う組織体制の整備し運営しているか	<input type="radio"/>	①学校保健計画を策定している
			<input type="radio"/>	②学校医を専任している
			<input type="radio"/>	③担当職員を配置している
			<input type="radio"/>	④全校で定期健康診断を実施している
			<input type="radio"/>	⑤有所見者への再健診は学校医の責任で対応している
			<input type="radio"/>	⑥有所見者への再健診は学生に任せているが、再受診の催促は2回以上行っている
			<input type="radio"/>	⑦感染症や食中毒の予防の教育を実施している
			<input type="radio"/>	⑧実習前には感染症や食中毒の検査を実施している
			<input type="radio"/>	⑨心身の健康相談に対応している
<input type="radio"/>			⑩連携している医療機関がある	
(5-5) 財務運営	1. 事業計画等に基づき予算を編成し、適正に執行管理を行い、決算書を作成しているか	<input type="radio"/>	①主要な財務数値に関する財務分析を行い、学校及び法人の財務関係比率について指標や基準を定めている	
		<input type="radio"/>	②学校及び法人の財務関係比率は上記の指標、基準に照らして評価が行われている	
		<input type="radio"/>	③評価結果は十分である	
		<input type="radio"/>	④予算規程、経理規程は整備されている	
		<input type="radio"/>	⑤目的・目標に対応した予算になっている	
		<input type="radio"/>	⑥各予算に根拠資料が添付されている	
		<input type="radio"/>	⑦予算編成は各部門で作成している	
		<input type="radio"/>	⑧各部門の責任者で構成する予算検討会議で検討している	
		<input type="radio"/>	⑨事業計画及び予算は理事会で最終決定している	
		<input type="radio"/>	⑩各予算の編成・決定過程は議事録が作成されている	
		<input type="radio"/>	⑪期中で目標と実績のズレを確認している	
		<input type="radio"/>	⑫予算超過が見込まれる場合、補正予算理事会を開催している	
	<input type="radio"/>	⑬会計士等の専門家に相談する体制がある		
2. 学校及び法人運	<input type="radio"/>	①学校法人会計基準の財務関係比率について目標を定めている		
	<input type="radio"/>	②目標を達成している		

	営の中長 期的な財 務基盤は 安定して いるか	<input type="radio"/>	③目標を概ね達成している	
			④目標を達成していない	
		<input type="radio"/>	⑤中期計画を策定している	
		<input type="radio"/>	⑥中期計画は毎年、見直しをしている	
	(5-6) 監査・財務 情報の公開	1. 私立学 校法及び 寄附行為 に基づき 適切に監 査を実施 している か	<input type="radio"/>	①監事・監査規程を作成している
			<input type="radio"/>	②監事・監査規程にしたがって監査報告書を作成し理事会で報告している
			<input type="radio"/>	③監事による監査を定期的に行っている
			<input type="radio"/>	④監査に加え公認会計士等による外部監査を実施している
		2. 私立学 校法に基 づく財務 情報公開 体制を整 備し適正 に運用し ているか	<input type="radio"/>	①情報公開規程や財務公開規程は明文化されている
			<input type="radio"/>	②情報公開規程や財務公開規程は教職員が何時でも閲覧できるようになっている
<input type="radio"/>			③公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書はすべて作成している	
			④HPに掲載し公開している	
(学校関係者評価委員会による評価)				
・特に意見はなかった。				

関東福祉専門学校 学校関係者評価委員会 委員名簿

	氏名	職名等	区分
委員長	谷中 稔	志学会高等学校 学校長	高等学校関係者
委員	小島 孝司	株式会社 ウィンザー 代表取締役	保護者
委員	鈴木 晃	障がい福祉サービス事業所 夢工房翔裕園	卒業生
委員	丸山一之	税理士	専門家
委員	鈴木 効子	介護老人保健施設いこいの家 事務長	企業関係者
委員	赤坂 弘美	社会福祉法人元気村 本部	企業関係者